

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 東浦町立藤江小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒470-2105

愛知県知多郡東浦町藤江仏131

E-mail hfujishot@higashiura.ed.jp

Website http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2310251

幼児児童生徒数 男子 203名 女子 201名 合計 404名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「自ら課題を見つけ探究する児童の育成」を研究主題とし、ESDの視点を取り入れた教育活動を通して、持続可能な社会づくりにつながる身近な問題を自らの課題として捉え、それらを解決しようとする態度や必要な能力を身に付けることを目標としている。

具体的には、生活科や総合的な学習の時間を中心に、①環境及び生物多様性に関する学習、②伝統文化に関する学習、③国際理解に関する学習、④福祉に関する学習を行った。

### ① 環境及び生物多様性に関する活動

- ・学校周辺の竹林でたけのこ掘りを行った。
- ・地域の竹炭同好会の協力を得て、竹炭作りやその効能を確かめる実験をした。
- ・地域の自然観察指導員の協力を得て、ビオトープに生息する水生生物の観察をした。
- ・地域の自然観察指導員の協力を得て、年間5回の野鳥観察会を行った。
- ・校舎南に網を設置し、ヘチマやゴーヤを育ててで緑のカーテンを作った。

## ② 伝統文化に関する学習

- ・「昔の遊びを知る会」を開き、地域のお年寄りの方から竹とんぼやお手玉などの昔の遊びを教えてもらった。
- ・「だんつくを知る会」を開き、藤江地区に伝わる県の無形民俗文化財「だんつく獅子舞」について、保存会の方から教えてもらった。

## ③ 国際理解に関する学習

- ・「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」に参加し、ロシアの小学校と交流した。共通テーマを決め、壁画の共同制作をした。
- ・修学旅行で訪れる奈良と京都で、旅行中の外国人と交流する計画を立て、実行した。

## ④ 福祉に関する学習

- ・校区にある障害者施設「ひがしうらの家」を訪問し、入所者の方と話をしたり、作業の手伝いをしたり、お楽しみ会を開いたりして交流した。
- ・「福祉実践教室」を実施し、手話、点字、ガイドヘルプ、車いすの講座を受けた。



5年 野鳥観察会



3年 だんつくを知る会



6年 アートマイル壁画作成中



4年 「ひがしうらの家」との交流

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

JICA資料「学校に行きたい！」 JICA資料「学校に行けない世界の子どもたち」
---

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESDの視点を取り入れて、各学年で生活科、総合的な学習の時間の単元づくりをする。関連する教科学習を横断的につなぎ、年間計画をESDカレンダーにまとめている。

毎年、ESDカレンダーに従って実践を行い、年度末に変更や追加、反省などを次年度の担任に伝える。それを基にESDカレンダーを更新し、指導内容や指導方法を改善している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESDを校内研究のテーマとし、全学年でESDカレンダーを作成し、全学級で実践をしている。

年間で各学年1回、ESDを取り入れた授業研究を行う。それを全教員が参観し、事後に研究協議会を開いて、単元づくりや指導法について研修を深めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

（内部）29年度の反省と30年度に向けての提言

- ・授業研究、ESDカレンダーの活用、研修会への参加ができた。
- ・新学習指導要領の実施に向けて、総合的な学習の時間のカリキュラムの見直しが必要である。

（外部）学校教育診断調査

- ・学校では、特色ある教育活動がなされている。
- ・平成26年にユネスコスクールに加盟し、保護者の理解は年々深まっている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

愛知県ユネスコスクール交流会

- ・ポスターセッションで児童6名が実践内容を発表した。

愛知県ユネスコスクール指導者研修会

- ・教員が校内の実践事例を発表した。

ユネスコスクール活動事例集

- ・本校の実践事例を誌上発表した。

※本校のESD活動を広く紹介することができ、児童や教員には今後の活動に向けて意欲を高めることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

公民館とユネスコスクールとの連携によるESD推進事業

(東浦町藤江公民館と連携して活動した。)

「地域の盆踊りに参加しよう」

- ・地域の踊りサークルの方を招いて盆踊りを教えてもらった。
- ・全校児童から盆踊りの絵を募集し、盆踊り開催中に会場内にある藤江公民館内に展示した。

「子どもミーティングをしよう」

- ・「みんなで一緒に学ぶ防災」をテーマに、防災教育アドバイザーから防災・減災活動について学び、地域の方々と話し合った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)  
※チェック事項 2-4 に対応

アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト

(ロシアのモスクワ・ステイト小学校と交流した。)

- ・英語による自己紹介ポスター作成し、インターネットで相手校と交換した。
- ・壁画の共通テーマを「自分たちの国の文化を伝え合おう」と決め、半ずつ絵を描いて壁画を完成させ、鑑賞し合った。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

- ・ 教員が授業づくりをする際に、児童が自分事として問題意識をもち、課題追究できるような仕掛けを考えるようになった。
- ・ 児童が、学習を深める活動や、学習の成果を広める活動に、生き生きと意欲的に取り組むようになってきた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

- ・ 本校の特色を生かして、環境・生物多様性・伝統文化・国際理解・福祉等に関する学習活動を、生活科や総合的な学習の時間に取り入れ、ESDの視点で見直して実践していく。
- ・ 学びに火をつけ、自分事として追究できるような仕掛けを考える。
- ・ 「問題の認識・課題設定」の場面で授業研究をする。
- ・ ESDを支えるコミュニケーション能力の育成の場として、「伝え合いタイム」を行う。
- ・ 協力やリーダーシップを経験する場として、「ペア活動」を行う。
- ・ 外部講師を招き、話を聞いたり授業研究に参加してもらったりして、指導・助言を受ける。